

在シドニー総領事通信

第40回 シドニーでの2つの展覧会－広島長崎原爆展と日本人彫刻展

令和3年（2021年）5月31日

シドニーでは新型コロナウイルス対策が大きな成果を上げ、最近は大規模な行事が次々と開催されるようになりました。

5月20日には、日本をテーマにした2つの展覧会の開会行事に出席し、挨拶を行う機会に恵まれました。一つは国立海洋博物館での「戦争と平和：広島と長崎の原爆展」、もう一つはロックス地区キャンベルズコーブでの「ロックスの彫刻：日本人芸術家による彫刻展」です。

いずれも、シドニー市内の著名な場所から日本のメッセージを伝え、当地における日本の存在感を高めるすばらしい展覧会でした。今回の総領事通信では、皆様に両展覧会と開会行事の概要をご紹介しながら、豪州における日本の広報文化行事の意義について考えたいと思います。



国立海洋博物館入口に掲げられた「戦争と平和」展の横断幕
(2021年5月20日)

●広島と長崎の原爆展

シドニー市内 Pyrmont にある豪州国立海洋博物館は、5月21日から8月29日まで、広島平和記念館と広島市、長崎市の展示品の貸与を受けて、「戦争と平和：広島と長崎の原爆展」を開催しています。この展覧会は、豪州建国200周年米国寄贈基金（USA Bicentennial Gift Fund）の支援を受けた、同博物館の太平洋戦争終結75周年記念教育事業を締めくくる行事として企画されました。新型コロナウイルスの影響で、75周年にあたる昨年から1年経った本年に開催されたものです。

この教育事業により、日米豪3カ国の高校生が2018年には米国各地、2019年12月には東京や広島など日本各地を訪問して研修を行いました。昨年は豪州訪問を予定していましたが、残念ながらコロナで中止となりました。

今回の展覧会も次世代の教育に重点を置いており、既に多くの高校から授業の一環としてこの展覧会に来て講義を受ける計画が立てられているとのことです。



「戦争と平和」展開会行事での小官の挨拶（画面は広島被爆者の梶本良子氏）
(2021年5月20日)

開会行事では、最初に国立海洋博物館のサンクション館長から、本展覧会にいたる経緯と趣旨について説明がありました。広島平和記念館の滝川館長もオンラインで参加し、核兵器の悲惨さを全世界の指導者に伝えたいとの思いを述べるとともに、核廃絶の実現への協力を要請しました。

引き続き、被爆者の梶本淑子氏（90歳）から、被爆体験の講話がありました。梶本氏は被爆当時14歳で、父親は娘の梶本氏を探し回って被爆3日後に再会できたものの、被爆のため1年半後に死亡しました。母親は原爆症に苦しみながら20年後に死亡しました。梶本氏自身は1999年に胃ガンのため胃の3分の2を切除しました。同級生は、今もガンや白血病に苦しんでいるとのことでした。

私からは、核軍縮をめぐる各国の立場の隔たりを埋めることが不可欠であり、核兵器のない世界の実現という共通のゴールに向けて実質的な貢献を行うべく我が国は今後も尽力していくこと、そしてコロナや気候変動など新たな脅威に対処し、自由で開かれたインド太平洋を実現するためにも、日豪の協力が重要であることを訴えました。



展示を視察するサンプシヨン海洋博物館館長（向かって左）、
ハドソン＝ディーン在シドニー米国総領事（向かって右）と小官（中央）
（2021年5月20日）

この開会行事にはハドソン＝ディーン米国総領事も出席して挨拶し、昨年8月のバイデン米国大統領の広島・長崎の原爆の惨禍に関する声明や、最近の米口の新戦略兵器削減条約（新 START）の延長など最新の取組について説明がありました。

行事終了後、サンプシヨン館長に会場を案内いただきました。広島・長崎両市長からのメッセージにはじまり、原爆で死亡・負傷した多くの人たちの写真や絵、当時子どもが来ていた服、熱で溶けた弁当箱、午前8時15分で止まった時計などが展示されており、原爆の悲惨さを生々しく伝えていました。

また、会場には2016年にオバマ米国大統領が広島を訪問した際の折り鶴も展示され、日米の和解のメッセージも伝えていました。

私自身、広島と長崎の原爆から75年以上経った今、このシドニーで改めて核兵器の悲惨さを実感し、平和に向けて取り組む決意を新たにしました。



「ロックスの彫刻」開会行事でのガイドツアー
(2021年5月20日)

●日本人彫刻展

シドニー市内の中心部、オペラハウスとハーバーブリッジの双方が間近に見えるロックス地区のキャンベルズコーブで、5月20日から6月3日まで「ロックスの彫刻 (Sculpture Rocks) : 日本人芸術家の彫刻展」が開催されています。初日にはハーウィン NSW 州芸術大臣も出席してのメディアブリーフィングが行われ、当地の主要メディアも一斉に報道するなど大きな注目を集めました。

この彫刻展は、Sculpture by the Sea が企画・主催したものです。Sculpture by the Sea は、1997年から20年以上にわたり、シドニーのボンダイビーチからタマラマビーチまでの海岸遊歩道 (Coastal Walk) で彫刻展を開催し、今やシドニーの恒例行事となっています。しかし、新型コロナウイルスの影響で昨年の開催は中止されたことから、その代わりに小規模で、しかし大きなインパクトのある彫刻展の開催を企画し、今回のロックス地区での開催に至ったものです。



「ロックスの彫刻」週末ガイドツアー・昼食会で
向かって左から齋藤綾子氏、石野耕一氏、小官、鎌田亮氏
(2021年5月23日)

今回、ロックス地区での彫刻展開催に日本人の彫刻が選ばれた背景には、Sculpture by the Sea と日本人彫刻家たちの長年にわたる深い関係があります。日本人彫刻家の牛尾敬三氏は、Sculpture by the Sea が未だ草創期にあった1999年以來、自分の作品を出展してきたのみならず、他の日本人彫刻家にも声をかけて日豪間の輸送も手配してきました。年を追うごとに Sculpture by the Sea には多数の日本人彫刻家が出展するようになり、豪州に移住する人も出てきました。日本人の作品は大理石など重い素材が多いのでロックス地区での展示に適しており、作品数も多いこともあり、日本をテーマに選んだ由です。

今回の彫刻展には、14名の日本人芸術家による18点の作品が展示されています。そのうち、石野耕一氏、鎌田亮氏、齋藤綾子氏の3名はシドニー近郊に在住しているので、お会いしてお話を伺う機会がありました。鎌田氏は30年以上当地に在住しており、齋藤氏は当地で彫刻を学び、石野氏は Sculpture by the Sea を機に豪州のことを知って移住を決意したとのことでした。



「ロックスの彫刻」週末ガイドツアー・昼食会で
向かって左から小官、「海辺の彫刻」現・前・元会長、同創設責任者
(2021年5月23日)

私は、5月20日晚の開会行事と23日のガイドツアー・昼食会に出席させていただきました。

開会行事の挨拶では、Sculpture by the Seaと日本人彫刻家の長年にわたる深い関係について説明するとともに、実はそれは彫刻に限った話ではなく、日本食や観光など様々な面で日本文化が受け入れられていること、このように他国の文化を温かく受け入れる豪州の多文化主義は豪州にとっての大きな強みと感じていることをお話ししました。

ガイドツアーと昼食会では、Sculpture by the Seaの歴代会長をはじめ様々な支援者ともお会いして、芸術が分野を超えての様々な出会いをもたらすことを実感しました。



日本人彫刻家・山崎哲郎氏の作品
(2021年5月23日)

●日本の存在感を高める広報文化行事

今回、双方の展覧会の関連行事に出席して、日本をテーマにした大規模な行事の開催が、日本の存在感を高める上で大きく役立つことを実感しました。広島長崎原爆展は8月29日まで、日本人彫刻展は6月3日までそれぞれ開催していますので、皆様におかれては、是非お誘いあわせの上ご覧いただければ幸いです。

また、8月20日から29日まで当地を中心に開催予定の Japanaroo 2021 についても着々と準備が進んでいます。6月上旬にはロゴを発表し、7月にはウェブサイトも立ち上がる予定です。日本と豪州先住民双方の文化を紹介する開会ガラコンサートは既にチケットの販売が始まっています。次は、この Japanaroo 2021 を通じて日豪の相互理解と協力が一層進展するよう努力したいと思えます。

戦争と平和：広島と長崎の原爆展

<https://www.sea.museum/whats-on/exhibitions/war-and-peace>

ロックスの彫刻：日本人彫刻展

<https://sculpturebythesea.com/exhibitions/sculpturerocks/>

<https://www.facebook.com/sculpturebythesea>

(以上)